

CentreNET[®] X Vision
ユーザーマニュアル
かんたん編

アライドテレシス株式会社

ご注意

本書の中に含まれる情報は、弊社（アライドテレシス株式会社）が保有しています。弊社の同意なく本書の全体もしくは一部をコピーまたは転載しないでください。

弊社は、予告なく本書の全体もしくは一部を修正または改訂することがあります。あらかじめご了承ください。

弊社は、改良のため予告なく製品の仕様を変更することがあります。あらかじめご了承ください。

本製品の内容またはその仕様に関連して発生した結果については、いかなる責任も負いかねますのであらかじめご了承ください。

Copyright 2001 アライドテレシス株式会社

商標について

CentreNETは、アライドテレシス株式会社の登録商標です。

UNIXは、X/Openカンパニーリミテッドがライセンスする米国ならびに他の国における登録商標です。

Microsoft、MS-DOS、Windows、Windows NTは、米国Microsoft Corporationの米国その他の国における登録商標です。

HPは、米国Hewlett-Packard Companyの商標または登録商標です。

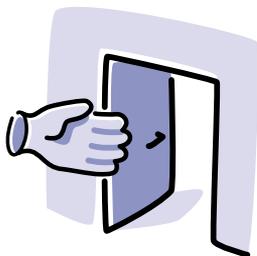
Intel、Pentiumはインテルの登録商標です。Celeronはインテルの商標です。

その他、本書に記載されている会社名、製品名等は、各社の商標または登録商標です。

マニュアルバージョン

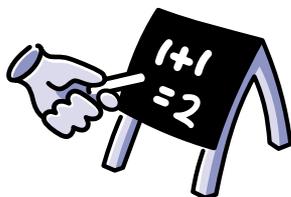
2001年2月 初版

目次



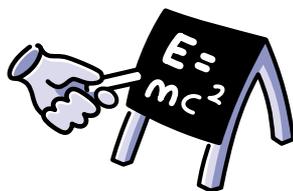
はじめに 5

<i>X Vision</i> とは	6
このマニュアルの内容	7



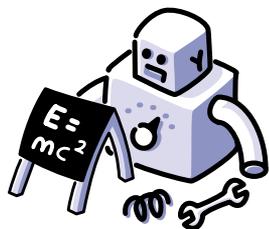
基本事項 8

デスクトップにあるもの	9
<i>Vision</i> フォルダまたは <i>Vision</i> グループの内容	10
ヘルプの使い方	12
<i>X</i> プログラムの実行	15
文字ベースのプログラムの実行	17
UNIX プログラムの項目の作成	19
<i>X</i> アプリケーションの使用	22
UNIX サーバの内容の表示	25



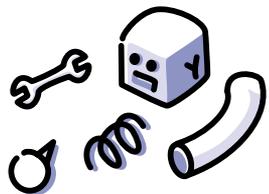
詳しい使い方 32

<i>X Vision</i> の設定	33
Motif または OPEN LOOK の使用	40
ファイルとフォルダの整理	41
印刷	49
トラブルシューティング	56



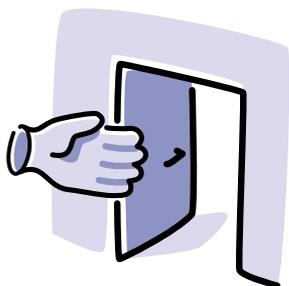
高度な使い方 57

UNIX ショートカットの Windows デスクトップへの設定	58
エミュレータから他のドキュメントへのリンク	61
Zone を使ったデスクトップの整理	64



索引 65

はじめに



このマニュアルでは、*X Vision* の概要とインストールや設定の方法を説明します。*X Vision* を PC にインストールし、*X Vision* を使って UNIX アプリケーションを使うためにはこのマニュアルを読む必要があります。

このマニュアルを読むと、Microsoft Windows から UNIX アプリケーションにアクセスする方法として *X Vision* が最も簡単である理由がわかります。

この章の内容

<i>X Vision</i> とは	6
このマニュアルの内容	7

X Vision とは

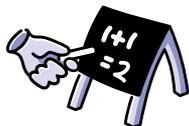
PC 上の Windows ユーザは X Vision を使うことにより、UNIX の文字ベースのアプリケーションやリモートのホストシステムで実行される X ウィンドウシステムのアプリケーションに透過的にアクセスできます。マウスでクリックするだけで、リモートシステム上のファイルの表示や、アプリケーションを起動することができます。また、ファイル転送、印刷も備えることによって、ひとつの完結した接続パッケージとなっています。

PC のユーザは、オフィスや外出先からでも Windows を扱うのと同じように UNIX のアプリケーションを操作できます。ネットワークと接続の細部はすべて X Vision が処理するため、ユーザが意識することはありません。

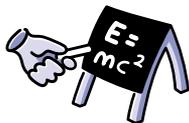
X Vision を使うと以下のことが可能です。

- リモートの UNIX システム上にある X ウィンドウシステムのグラフィックアプリケーション、または VT420 などの文字端末アプリケーションの実行
- 使い慣れている Microsoft Windows の環境での操作
- Windows からの UNIX のアプリケーションの簡単な起動
- X アプリケーションでの Microsoft Windows の見た目と使い心地の選択および X ワークステーションの見た目と使い心地として標準の X ウィンドウマネージャの使用
- UNIX システム上のファイルやフォルダ、およびファイル階層を、Windows のファイルを表示するのと似た方法で表示
- UNIX のドキュメントを Windows のデスクトップから開く
- UNIX アプリケーションと Microsoft Windows アプリケーションの間での情報のコピー
- PC システムと UNIX システムの間でのファイルの転送
- Windows および UNIX プログラムの実行中に複数のゾーンを持つ仮想デスクトップ領域の作成、およびそれぞれのゾーンでの切り替え
- リモートホストから、PC に接続されたプリンタへのファイルの印刷
- Windows アプリケーションから、UNIX システムに接続されたプリンタへの印刷
- さまざまな種類のネットワークを使って UNIX システムへ PC を接続

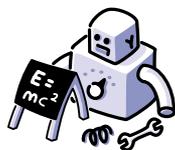
このマニュアルの内容



第1章「基本事項」では、Windows のデスクトップに表示されるものと、オンラインヘルプから詳しい情報を得る方法について説明します。また、UNIX アプリケーションの実行方法、X プログラムの扱い方、UNIX ファイルの表示方法についても説明します。



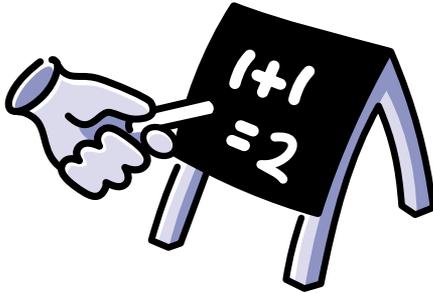
第2章「詳しい使い方」では、自分の PC で好みのウィンドウマネージャを実行して X ディスプレイにする方法を説明します。また、リモート印刷の設定方法についても説明します。X Vision を使って UNIX サーバ上のファイルを整理することもできます。



第3章「高度な使い方」では、デスクトップをゾーンに分割する方法、UNIX のデータから Windows ドキュメントにリンクする方法を説明します。

基本事項

1



この章では X Vision の概要を説明します。

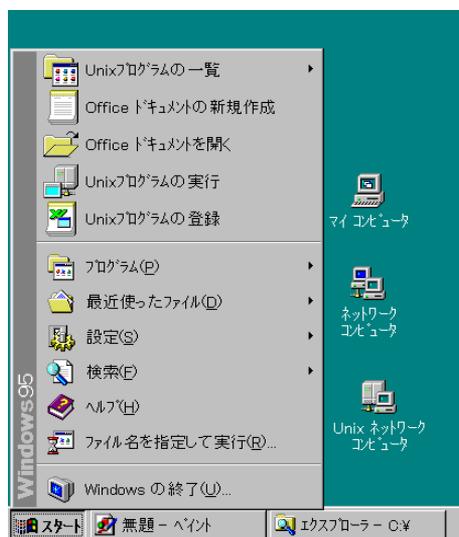
Windows のデスクトップ上に何が表示されるかと、オンラインヘルプから詳しい情報を得る方法について説明します。また、UNIX アプリケーションの実行方法、X プログラムの扱い方、UNIX ファイルの表示方法についても説明します。

この章の内容

基本事項	8
デスクトップにあるもの	9
Vision フォルダまたは Vision グループの内容	10
ヘルプの使い方	12
X プログラムの実行	15
文字ベースのプログラムの実行	17
UNIX プログラムの項目の作成	19
X アプリケーションの使用	22
UNIX サーバの内容の表示	25

デスクトップにあるもの

Windows 2000/Me/98/95 および Windows NT 4.0 では、[スタート] メニューに [Unix プログラムの一覧]、[Unix プログラムの登録]、[Unix プログラムの実行] の 3 つのコマンドが追加されます。また、デスクトップには [Unix ネットワークコンピュータ] というアイコンが追加されます。デスクトップには [マイコンピュータ] アイコンが既にあるはずですが、MS-DOS や Windows のネットワークに接続されている PC の場合には [ネットワークコンピュータ] アイコンも表示されていることがあります。[Unix ネットワークコンピュータ] は、これと似た機能を持つ UNIX サーバを表示するための項目です。



Windows NT 3.51 では、プログラムマネージャに [CentreNET X Vision] グループが作成されます。



Vision フォルダまたは Vision グループの内容

Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 の場合には、[スタート]メニューの [プログラム] フォルダ内にある [CentreNET X Vision] フォルダ、Windows NT 3.51 の場合にはプログラムマネージャ内の [CentreNET X Vision] グループに、Setup プログラムでの選択に応じて次の表に示したアイテムの一部、またはすべてが含まれます。一部の項目は [CentreNET X Vision] フォルダのサブフォルダ内に置かれます。

項目	説明
	オーディオサーバ。声、音響効果、音楽などの音声をネットワーク環境で送受信する機能を X アプリケーションに付加します。
	コネクションマネージャ。多重化送信を行うプロトコルを使っているときに、接続の PC 側を管理するのに使われます。通常、必要があると自動的に起動されます。
	フォントコンパイラ。サードパーティ製のフォントが X サーバで使えるようにコンパイルされます。
	ホストエクスプローラ。Windows 2000/Me/98/95 や Windows NT 4.0 でリモートホストを表示するのに使います。
	ホストマネージャ。Windows NT 3.51 でリモートホストを表示するのに使います。
	キーマップエディタ。端末エミュレータで使うキーボードマップの作成と変更を行います。
	プログラムスタータ。UNIX サーバ上のプログラムを離れたところから実行できます。
	Vision ヘルプ。X Vision Help を起動します。

アイテム	説明
	VT420 エミュレータ。VT420 端末のエミュレータです。
	X キーマップエディタ。X クライアントで使うキーボードマップを作成できます。
	X Vision サーバ。X ウィンドウシステムのクライアントを手元の PC に表示できます。
	X Vision セットアップ。部分的な設定のみ実行した場合に、オプションを追加できます。
	X Vision スパイ。X プロトコルのストリームを記録して再現するトラブルシューティング用のツールです。必ずテクニカルサポートの指示の下に使います。X Vision のマニュアルでは説明しません。
	Zone。Windows と UNIX、またはそのどちらかだけのアプリケーションを含む複数のゾーンからなる仮想デスクトップ領域を作成し、その間で切り替えを行います。

ヘルプの使い方

オンラインヘルプは、X Vision に関する主な情報源です。このヘルプは4つに分類できます。基本的な考え方の紹介、特定の手順に関するヘルプ、画面に表示されている内容に応じたコンテキストヘルプ、オンラインのリファレンスマニュアルです。

ヘルプを使用するには

- ▼ Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に、[CentreNET X Vision] をポイントして [CentreNET X Vision ヘルプ] をクリックします。
- ▼ バージョン 4.0 より前の Windows NT の場合は、プログラムマネージャの [CentreNET X Vision] グループで [CentreNET X Vision ヘルプ] アイコンをダブルクリックします。



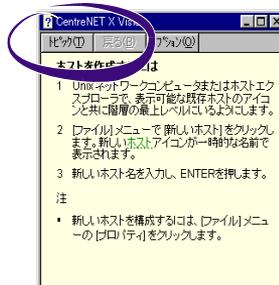
- ▲ ヘルプピックのリストが表示されます。タブキーを押すと、数通りの方法で情報を検索できます。

目次からヘルプを探すには

- ▼ [目次] タブをクリックしてテーマごとに分類されているトピックを見つけてから、画面の指示に従います。

ヒント

ヘルプトピックに、下線付きの緑色のテキストが含まれています。このテキストをクリックすると、その用語の定義が表示されます。



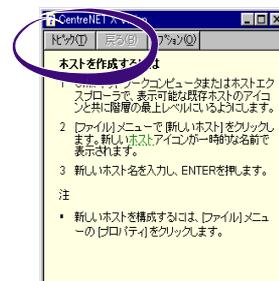
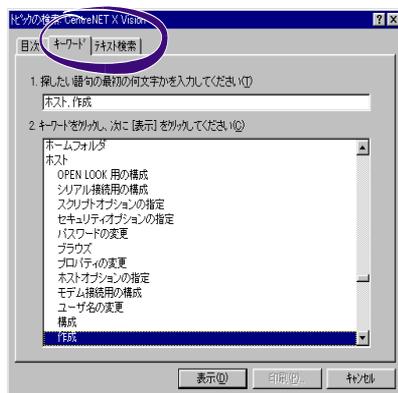
- ▲ トピックのリストに戻るには、[トピックの検索] をクリックします。

キーワードからヘルプを探すには

- ▼ [キーワード] タブをクリックしてアルファベット順に並んでいる具体的なトピックを見つけてから、画面の指示に従います。

ヒント

[ヘルプキーワード] をスクロールするには、見つけたい単語の最初の数文字を入力します。このキーワードは本の索引と同じように並んでいます。目的の単語が見つからないときは、別の単語で検索してみてください。



- ▲ トピックのリストに戻るには、[トピック] をクリックします。

特定のアイテムに関するヘルプを見るには

- ▼ ダイアログボックス内の項目に関する情報を見るには、**[?]**をクリックしてからその項目をクリックします。

ヒント

マウスの右ボタンでその項目をクリックしてから、「ヘルプ」ボタンを押すという方法もあります。



◀ ポップアップに説明が表示されます。クリックすると消えます。

X プログラムの実行

PC で X プログラムを表示するには、X サーバが実行されている必要があります。通常、X サーバはセットアップの完了時と PC の起動時には自動的に起動されます。デフォルトでは、X サーバは“マルチウィンドウモード”で実行されます。それにより組み込みの Vision Window Manager が使われ、X クライアントの見た目と使い心地は Microsoft Windows と同じになります。自分の PC を X 端末と同様の見た目にするには、X サーバを“シングルウィンドウモード”で使用し、標準の X ウィンドウマネージャを使う必要があります。X サーバの設定と起動についての詳細は、第 2 章「詳しい使い方」を参照してください。

ネットワークに接続されている PC では、リモートプログラムスタータを使って X アプリケーションを起動できます。

X プログラムを実行する方法

▼ 1 以下のどちらかを実行します。

- Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[Unix プログラムの実行] をクリックします。
- バージョン 4.0 より前の Windows NT の場合は、プログラムマネージャで [CentreNET X Vision] を開いて、[プログラムスタータ] のアイコンをダブルクリックします。



◀ 2 [ホスト] ボックスで、ホスト名を入力するかドロップダウンリストから選択します。

▶ 3 [コマンド] ボックスに、X プログラムを起動するためのコマンドを入力します。DISPLAY 変数は自動的に設定されるため、-display オプションは指定しないでください。また、末尾にはアンパサント (&) を入力しないでください。

別の方法では、まず [参照] ボタンをクリックします。[ホスト] ボックスが空だと、設定されているホストがすべて表示されます。[ホスト] ボックスにホストを指定している場合、そのホストにある自分のホームディレクトリの内容が表示されます。ここで、実行したいプログラムかシェルスクリプトを探します。

- ▶ 4 他の設定を変更する場合は、[プロパティ] メニューからコマンドを選択します。項目に関するヘルプを見るには、タイトルバーにある疑問符のボタンをクリックしてからその項目をクリックします。

- ▶ 5 [実行] をクリックします。

数秒後に X アプリケーションが起動するはずですが、X アプリケーションが表示されない場合は、ヘルプのトラブルシューティングを実行して問題を特定してください。[スタート] ボタンをクリックして [プログラム] をポイントし、それから [CentreNET X Vision] をポイントします。次に、[CentreNET X Vision ヘルプ] をクリックし、[目次] タブの [トラブルシューティング] をダブルクリックします。

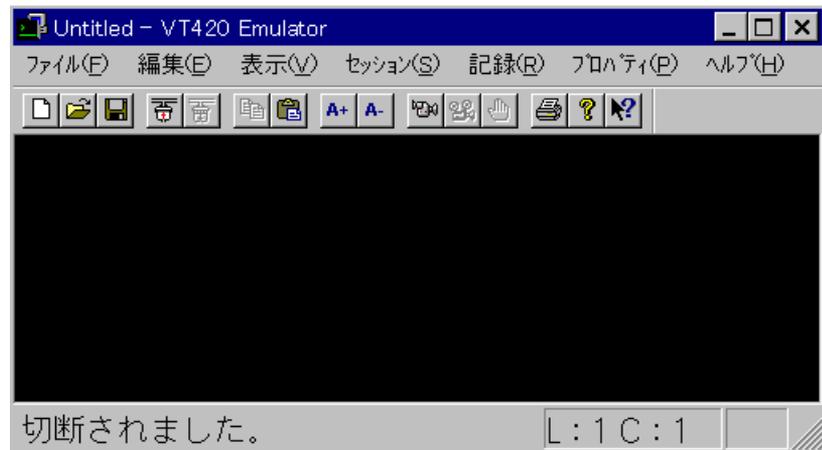
文字ベースのプログラムの実行

文字ベースのUNIXプログラムは、一定の種類の端末だけで動作するように設計されています。そのため、そのようなUNIXプログラムをPCから実行するには、X Visionの端末エミュレータを使う必要があります。VT420端末エミュレータが用意されています。ほとんどのUNIXアプリケーションは、この端末で使用できるはずですが、一部サポートされないESCシーケンスがあります。制限事項については「ユーザーマニュアル・インストール編」「リリースノート」を参照して下さい。

端末エミュレータからプログラムを実行する方法

▼ 1 以下のいずれかを実行します。

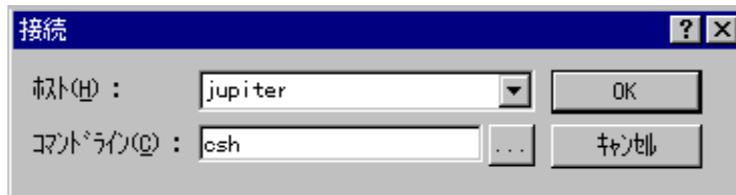
- Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に、[CentreNET X Vision] をポイントし、[VT420 エミュレータ] をクリックします。
- バージョン 4.0 より前の Windows NT の場合は、プログラムマネージャで [CentreNET X Vision] グループを開いて、VT420 エミュレータのアイコンをダブルクリックします。





- ▶ 2 [セッション] メニューの [接続] をクリックします。

- ▼ 3 [ホスト] ボックスで、ホスト名を入力するかドロップダウンリストから選択します。
- ▼ 4 [コマンドライン] ボックスに、プログラムを起動するためのコマンドを入力します。UNIX ホストに手動でログインする場合は、空白のままにしておきます。UNIX システムのプロンプトを表示する場合は、`sh` や `csh` などのシェルプログラムの名前を入力します。



ブラウザボタン (...) をクリックして UNIX ホストを表示させて、ログオンするホスト (およびコマンド) を指定する方法があります。ホストを指定しなければ、すべてのホストが表示されます。[ホスト] エントリにホストが指定されていると、そのホストにある自分のホームディレクトリの内容が表示されます。ここで、実行したいプログラムかシェルスクリプトを探します。

プログラム名が入力してあると、UNIX ホストに接続されて自動的にログインし、プログラムが起動します。シェルプログラムを指定した場合は、UNIX システムのプロンプトが表示されて、実際の端末でログインしたのと同じようにシステムを操作できます。[コマンドライン] ボックスが空白のままだと、接続してから UNIX の “Login” プロンプトが表示されて手動でのログインが要求されます。ログインすると、デフォルトのログインシェルによるシステムプロンプトが表示されます。シェル以外のプログラムを指定してあると、自動接続とログインが完了してすぐにそのプログラムが実行されます。

UNIX プログラムの項目の作成

Unix アプリケーションウィザードを使うと、X アプリケーションや文字ベースのアプリケーションを起動するための Windows のデスクトップ項目を作成できます。このウィザードでは、Windows 2000/Me/98/95 および Windows NT 4.0 の場合はアプリケーションが [スタート] メニューの [Unix プログラムの一覧] メニューに追加されるか、ウィザードをどのように起動したかに応じてデスクトップ上またはフォルダの中に新しいアイコンが作成されます。Windows NT 3.51 では、[Windows] フォルダの中に設定ファイルが作成され、それをクリックするとアプリケーションを起動できます。

UNIX プログラムのデスクトップ項目を作成するには

▶ 1 以下のいずれかを実行します。

- アプリケーションを [スタート] メニューに表示する場合は、[スタート] ボタンをクリックしてから [Unix プログラムの登録] をクリックします。
- アプリケーションをアイコンとしてデスクトップ上かフォルダ内に表示する場合は、マウスの右ボタンでアイコンの位置をクリックしてから、[新規作成] をクリックし、次に [Unix プログラム] をクリックします。
- 古いバージョンの Windows では、プログラムマネージャの [CentreNET X Vision] グループを開いて [Unix アプリケーションウィザード] アイコンをダブルクリックします。

▼ 2 ウィザードの指示に従って、ホストと実行するコマンドを選択します。[参照] ボタンを使って実行可能ファイルを探すことができます。

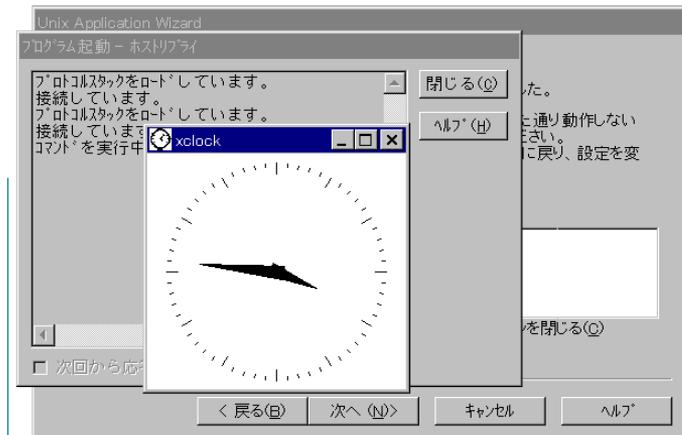


- ▼ 3 プログラムの種類を選択するように要求されます。[その他] は、ユーザインタフェースのない UNIX プログラムです。



- ▼ 4 ウィザードから、アプリケーションをテストするかどうか尋ねられます。コマンドによって、実行する前にホストシステムを誤って変更しないように注意してください。

アプリケーションが X クライアントである場合は、[ホストからの応答表示] ウィンドウが表示されます。ここでは、ホスト側のオペレーティングシステムによって生成されたエラーメッセージなどの、ステータスメッセージが表示されます。次に、X クライアントが表示されます。



- ▼ 5 コマンドによってエラーが発生すると、ウィザードによってそのエラーが表示されます。一般的なエラーの場合は、リストからエラーを選択して [ヘルプ] ボタンをクリックして、その状況に合ったアドバイスが得られます。[戻る] ボタンをクリックすると設定が前の状態に戻り、プログラムを実行し直すことができます。



- ▶ 6 ウィザードからアプリケーション名が尋ねられます。この名前が、設定ファイルの名前として使われます。

Unix アプリウィザードによって、リモートプログラムスタートドキュメント (.rps) が端末エミュレータドキュメント (.v42) が作成されます。[スタート] メニューからウィザードを実行した場合には、アプリケーションは [スタート] メニューの [Unix プログラムの一覧] のリストに追加されます。デスクトップから実行した場合には、新しいアイコンが表示されます。フォルダ内から実行した場合には、そのフォルダに設定ドキュメントが作成されます。

X アプリケーションの使用

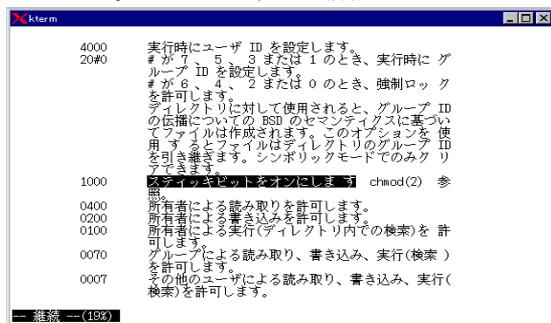
ここでは、X アプリケーションが起動して PC の画面に表示されてからの使用についての基本的な知識を説明します（「X プログラムの実行」を参照）。

X と Windows の間でのコピーアンドペースト

X クライアントと Windows アプリケーションの間では、簡単に情報のコピーアンドペーストができます。以下の手順は、X サーバのプロファイルでクリップボードのデフォルトの設定を変更していないことが前提です。

情報をコピーアンドペーストするには

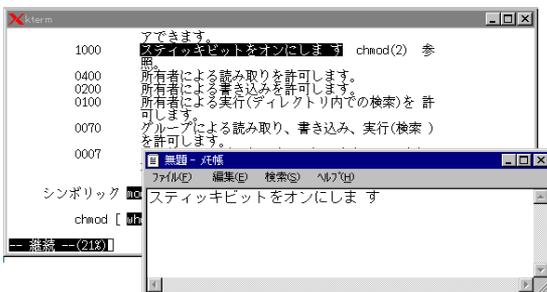
- ▼ 1 X アプリケーション側のコピーしたい情報を、マウスでドラッグして選択します。これにより、その情報が Windows のクリップボードにコピーされます。



ヒント

クリップボードから X アプリケーションに情報をペーストするには、カーソルを合わせてからマウスのボタンを両方同時にクリックします。

- ▼ 2 情報をペーストしたいドキュメントで、挿入する位置にカーソルを合わせます。
- ▼ 3 [編集] メニューの [貼り付け] をクリックします。



参照

端末エミュレータ上の情報もコピーアンドペーストできます。詳細については、ヘルプのキーワードで「コピー」と「貼り付け」を参照してください。

ドキュメントに新しい情報が表示されます。

フォント代替機能の使用

デフォルトではフォント代替機能が使えます。そのため、Xアプリケーションから要求されたフォントが自分の PC (またはフォントサーバ) に存在しない場合には、Xサーバによって自動的に他のフォントに置き換えられます。フォントの代替を自分である程度コントロールしたい場合は、Xサーバの [プロパティ] ダイアログボックスの [フォント] タブで [確認] をクリックします。対話型のフォント代替機能が有効になる範囲は、ひとつのリクエストだけ、ひとつのセッション内のすべてのリクエスト、または常時のどれかを選択できます。あるフォント代替を常時有効にするためには、[フォントパス] リストに [Global aliases] が必要です。



アプリケーションから要求されたフォントが使えないと、代替フォントの候補を示すダイアログボックスが表示されます。



候補を受け入れるか、別のフォントを [提案] リストから選択します。最初に表示されたフォントの候補の中に適当なフォントがない場合は、使用可能なフォントすべてを手動で検索することができます。そのためには、[パターン] ボックスに検索パターンを入力します。ワイルドカードを使うこともできます。フォントの論理的な記述の一部を、[見つからないフォント] ボックスから [パターン] ボックスへ Windows のコピーアンドペーストの方法でコピーすることができます。コピーしたいテキストを選択してから、Control + Insert を押します。コピー先を選択して Shift+Insert を押します。[提案] をクリックすると新しい候補リストが表示されま

 **参照**

X アプリケーションの使用についての詳細は、『ユーザーマニュアル・詳細編』の「X サーバ」の章を参照してください。

UNIX サーバの内容の表示

UNIX コンピュータにあるファイルとフォルダを表示することができます。

Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 で UNIX サーバの内容の表示

[UNIX ネットワークコンピュータ] または [ホストエクスプローラ] を使うと、UNIX コンピュータの内容を確認できます。

Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 で UNIX サーバの内容を表示するには



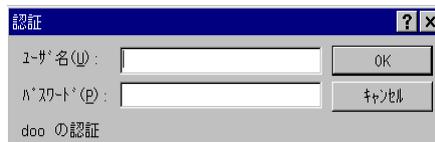
- ◀ 1 デスクトップで [Unix ネットワークコンピュータ] をダブルクリックします。



- ◀ 2 「コントロールパネル」「Visionコミュニケーション」の「ホスト」に登録されている UNIX サーバのすべてがウィンドウにアイコンで表示されます。



- ◀ 3 表示したいホストのアイコンをダブルクリックします。



- ◀ 4 そのホストに初めて接続した場合は、ユーザ名とパスワードを入力するように要求されます。

- ▼ 5 ホストにある自分のホームフォルダの内容が、ウィンドウに表示されます。

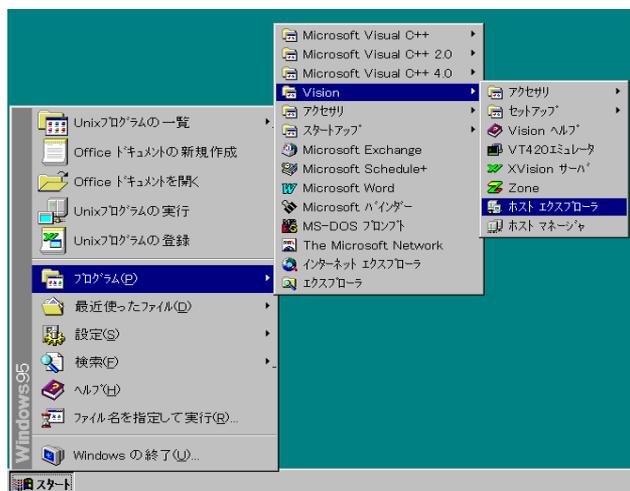


ホストエクスプローラを使った UNIX サーバの内容の表示

UNIX サーバの内容を確認するもうひとつの方法は、ホストエクスプローラを使います。この場合、そのコンピュータの内容が階層状またはツリー構造で表示されます。UNIX サーバ上のフォルダとファイルを簡単に把握することができます。

フォルダの階層を表示するには

- ▼ 1 [スタート] メニューをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に、[CentreNET X Vision] をポイントし、[ホストエクスプローラ] をクリックします。



- ▼ 2 ウィンドウの左側のホストをクリックします。このホストに初めて接続した場合は、ユーザ名とパスワードを入力するように要求されます。

ヒント

ホストエクスプローラを開くもうひとつの方法は、[Unix ネットワーク コンピュータ] アイコンをマウスの右ボタンでクリックし、次に [エクスプローラ] をクリックします。

ウィンドウの左側のフォルダを表示または非表示にするには、フォルダの横の + あるいは - 記号をクリックします。



ウィンドウの右側に、マウスの左ボタンでクリックした項目の内容が表示されます。

Windows NT 3.51 でのホストマネージャの使用

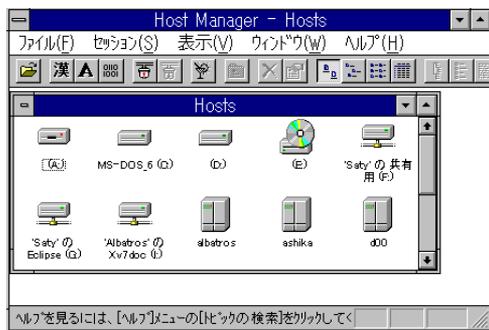
ホストマネージャを使うと Windows NT 3.51 で UNIX サーバの内容を表示できます。

ホストマネージャを使って UNIX サーバの内容を表示するには



- ◀ 1 プログラムマネージャの [CentreNET X Vision] グループを開き、[ホストマネージャ] アイコンをダブルクリックします。

- ▼ 2 ウィンドウに、PC のディスク、Windows のドライブが接続されていればそのドライブ、および現在設定されている UNIX ホストが表示されます。



- ◀ 3 表示されている項目の内容を見るには、その項目をダブルクリックします。



- ◀ 4 UNIX ホストを選択した場合、そのホストへの接続が初めてならばユーザー名とパスワードを入力するように要求されます。

- ▼ 5 ホストにある自分のホームフォルダの内容が、ウィンドウに表示されます。



ファイルの種類の違い

ホストエクスプローラとホストマネージャに表示されるフォルダとファイルには、数種類のアイコンが使われています。

アイコン	意味
	フォルダ。ファイルと他のファイルを含むことができます。
	ファイル。ユーザが使用および作成するドキュメントと、使用するプログラムはどちらもファイルです。ファイルの種類によってアイコンも異なることがあります。ここに示した標準の (汎用) アイコンは、そのファイルの種類に特定のアイコンが関連付けられていないときに使われます。
	VT420 端末エミュレータで実行されるプログラム
	端末との接続がない状態で実行されるプログラム
	ASCII テキストのドキュメント

これ以外にも特定のアイコンが決まっているファイルの種類がセットアップで設定されます。また、ユーザが自分で追加することもできます。

プログラムまたはドキュメントを開く

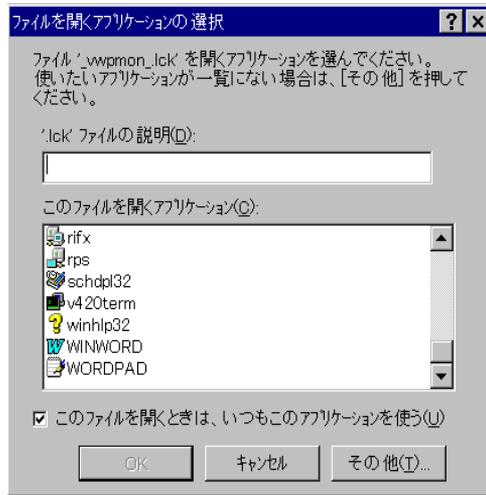
アイコンをダブルクリックすると、フォルダならば内容を見ることができ、プログラムならば実行され、ドキュメントならば開くことができます。

[ホストエクスプローラ] または [ホストマネージャ] からプログラムを実行する、またはドキュメントを開くには

- ▼ [ホストエクスプローラ] または [ホストマネージャ] で、開きたいファイルを見つけてダブルクリックします。

ファイルが実行可能プログラムであると認識されると、それに応じた端末エミュレータかリモートプログラムスタータが PC で起動され、UNIX サーバ上でプログラムが実行されます。ファイルがドキュメントの場合は、UNIX プログラムが起動してからそのドキュメントが読み込まれます。その UNIX プログラムが X アプリケーションの場合は、PC で X サーバが実行中でなければ起動されません。

ファイルが登録済みのファイルの種類のものでないと判断されると、[条件付きで開く] ダイアログボックスが表示されます。ここで、そのファイルを表示するのに使うアプリケーションを選択します。



ウィンドウの表示形式の変更

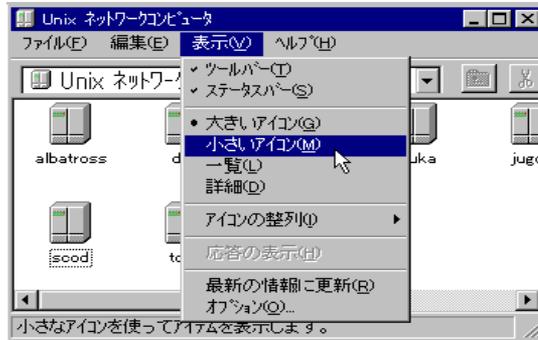
ウィンドウの表示形式を変更することができます。

ウィンドウの表示形式を変更するには

- ▼ [表示] メニューで、[小さいアイコン]、[一覧]、[詳細] のどれかのコマンドをクリックします。

ヒント

各メニューコマンドの説明を見るには、[表示]メニューをクリックして[ステータスバー]コマンドにチェックマークを付けます。この状態でマウスをメニューコマンドに合わせてると、そのコマンドに関する情報がウィンドウの一番下に表示されます。



これは、[大きいアイコン]による表示です。

ひとつ上のフォルダの表示

ひとつ上のフォルダを表示することができます。

ひとつ上のフォルダを表示するには

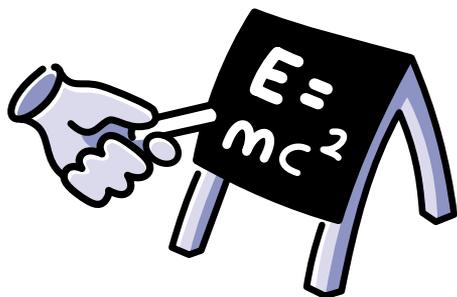


▶ 1 ツールバーが表示されていない場合は、[表示] をクリックしてから [ツールバー] をクリックします。

▶ 2 ツールバーで  ボタンをクリックするか、Backspace キーを押します。

詳しい使い方

2



基本事項をマスタし、*X Vision* の設定方法を詳しく知りたいときや高度な機能を使いたいときに、この章を参照してください。

この章では、自分の PC で好みのウィンドウマネージャを実行し、*X* ディスプレイにする方法を説明します。また、リモート印刷の設定についても説明します。*X Vision* を使って UNIX サーバ上のファイルを整理することもできます。

この章の内容

<i>X Vision</i> の設定	33
Motif または OPEN LOOK の使用	40
ファイルとフォルダの整理	41
印刷	49
トラブルシューティング	56

X Vision の設定

Windows のコントロールパネルを使うと、以下の設定を変更できます。

- Vision コミュニケーション
- Vision サービス
- X Vision プロファイル

X Vision のプロファイルを設定することによって X サーバのオプションを指定することができます。

コントロールパネルを使って X Vision を設定するには

▼ 1 以下のいずれかを実行します。

- Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 の場合は、[スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に、[コントロールパネル] をクリックします。
- バージョン 4.0 より前の Windows NT の場合は、プログラムマネージャで [メイン] グループを開き、[コントロールパネル] のアイコンをダブルクリックします。

参照

ダイアログボックス内の項目に関するヘルプを表示するには、右上隅にある疑問符をクリックしてから、その項目をクリックします。



▶ 2 [Vision コミュニケーション]、[Vision サービス]、[X Vision プロファイル] のいずれかをダブルクリックします。

Vision コミュニケーションの設定

Vision コミュニケーションの設定では以下を指定できます。

- [ホスト] - 接続して UNIX プログラムを実行します。
- [トランスポート] - PC をリモートの UNIX ホストに接続するときに使います。
- [データベース] - Vision コミュニケーションのデータベースに対してアクセスできます。
- [診断] - トラブルシューティング情報を提供します。

これらの設定は変更しないでください。



参照

トランスポートの設定について詳細は、この章の「UNIXサーバへのダイヤルアップ」を参照してください。

ネットワークに接続していると、X Visionソフトウェアが実行されているすべてのホストと、X Display Manager (xdm) デーモンが実行されているホストがホストファインダによって検出されます(「Vision サービスの設定」を参照)。デフォルトでは、ホストへの接続に使われるトランスポートは接続が開いたときに使用可能なものの中から自動的に選択されます。

Vision サービスの設定

Vision サービスの設定によって、以下を指定できます。

- [共通] - Vision サービスを手動で起動または停止できます。また、起動時にバナーを表示できます。
- [LNA] - PC から必要に応じてサーバのプログラムを起動できます。
- [ホストファインダ] - リモートホストを検出し、自動的に設定できます。
- [管理] - 管理ホストに接続し、変更があれば PC を更新します。
- [印刷] - ローカルおよびリモートの印刷サービスを実現します。

デフォルトでは、X Display Manager (xdm) デーモンが実行されているホストがホストファインダによって検出されます。ホストのカテゴリは、[ホストタイプ] ボックス内のチェックボックスをクリックして選択します。[LNA] タブと [管理] タブの設定は変更する必要がないはずですが、また、[印刷] の設定はこの章で後述します。



X Vision プロファイルの設定

[X Vision プロファイル] ダイアログボックスを使うと、以下を設定できます。

- [一般] - プロファイルを作成または変更できます。また、X サーバが起動したときに使うプロファイルを指定できます。
- [共通] - Windows が起動したときに X サーバを起動するかどうかと、セキュリティのオプションを指定します。

X サーバをシングルウィンドウモードで使うのであれば、これらの設定は何も変更する必要はありません。



注意 X サーバは、複数のプロファイルを用意して各プロファイルで別の [X ディスプレイ番号] を指定することによって、複数のインスタンスを実行できます。しかし、マルチウィンドウモードのセッションを複数実行することはできません。

アクティブな X サーバの設定

アクティブな X サーバはプロパティを変更することによって設定できます。

アクティブな X サーバを設定するには

以下のいずれかを実行します。

- サーバが非表示で実行中の場合は、タスクバーのインジケータ領域にある X サーバのアイコンをマウスの右ボタンでクリックしてから [プロパティ] をクリックします。Windows NT 3.51 の場合は、ルートメニューを表示して [プロパティ] をクリックします。
- サーバが非表示でない場合は、タスクバーにある [X サーバ] をマウスの右ボタンでクリックしてから [プロパティ] をクリックします。
- サーバがシングルウィンドウモードで実行中の場合は、[コントロール] メニューをクリックしてから [プロパティ] をクリックします。

ダイアログボックスが表示され、現在のプロファイルの名前がタイトルバーに表示されます。Tab キーを押すと、サーバのプロパティが切り替えられます。[OK] をクリックすると、変更が保存されてプロパティのダイアログボックスが閉じます。ダイアログボックスを閉じる前に変更内容を反映させるには、[更新] をクリックします。

変更のほとんどはすぐに反映されますが、表示モードの変更などは X サーバを再起動しないと反映されません。再起動が必要な場合には、すぐに X サーバを再起動するかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。再起動するならば [はい] ボタンをクリックします。アクティブなクライアントが存在する場合は、[いいえ] を選んでクライアントを終了させてから、[コントロール] メニューの [再起動] コマンドを使ってサーバを再起動することをお勧めします。

X サーバのプロパティの設定

X サーバのプロパティは、サーバの外見と動作、および X クライアントが画面にどのように表示されるかをコントロールします。X サーバのプロパティを設定するには、[X Vision プロファイル] ダイアログボックスでプロファイルを変更するか、アクティブな X サーバを設定します。既にアクティブになっている X サーバは、その起動に使われるプロファイルを変更しても反映されません。しかし、アクティブな X サーバに対してプロパティを変更すると、変更内容はそのプロパティに保存され、次にそのプロファイルを使って X サーバを起動するときに反映されます。



タブキーを押すと、サーバのプロパティを切り替えることができます。オプションの一部は、別のオプションを選択していないと指定できません。指定できないオプションはグレー表示されます。グレー表示されているオプションが使用可能になると、初期設定のデフォルトが示されます。

X サーバの起動

通常、X サーバは Windows が起動すると自動的に起動されます。サーバが自動的に起動されないようにするには、Windows のコントロールパネルで [X Vision プロファイル] をダブルクリックし、[共通] タブをクリックして、[Windows 起動時に X Vision をロードする] オプションを無効にします。X サーバは、プログラムスタタータを使って X クライアントを起動した場合も自動的に起動されます。

X サーバを手動で起動するには

以下のいずれかを実行します。

- [スタート] メニューをクリックし、[プログラム] をポイントします。次に、[CentreNET X Vision] をポイントし、[X Vision サーバ] をクリックします。
- 古いバージョンの Windows では、プログラムマネージャで [CentreNET X Vision] グループを開いて [X Vision サーバ] アイコンをダブルクリックします。

サーバが起動します。非表示で実行するように設定されていると、Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 の場合はタスクバーのインジケータ領域にインジケータが表示されます。



非表示で実行しないように設定を変更してあると、タスクバーかウィンドウにサーバが表示されます。

Motif または OPEN LOOK の使用

ヒント

ローカルMWMは「標準」セットアップではインストールされません。インストール時に「カスタム」を選択するか、追加インストールする必要があります（インストール編をご覧ください）。その上で、「拡張—シングルウィンドウモード」ダイアログボックスで有効にします。

ヒント

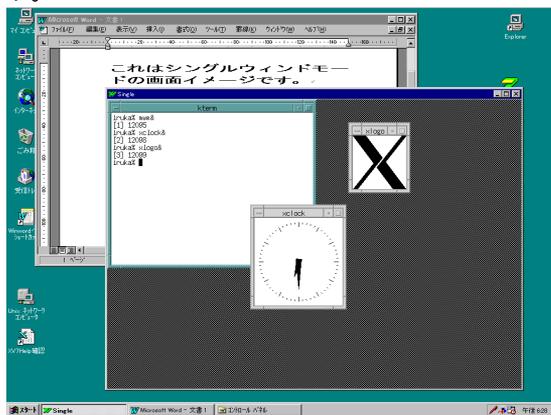
[拡張設定] ボタンをクリックすると、Xサーバを画面全体に表示するなどのオプションを設定できます。ダイアログボックス内の項目についてのヘルプを表示するには、右上隅の疑問符をクリックしてからその項目をクリックします。

参照

Xセッションを起動するのにX Display Managerを使う場合は、ヘルプのキーワードの「XDM」を参照してください。

X Vision をインストールしたときに作成したプロファイルでは、Xサーバをマルチウィンドモードで実行します。このモードでは、Xプログラムはそれぞれ独立したMicrosoft Windowsのウィンドウに表示されます。Xクライアントの管理には、Xサーバに組み込まれているVWMウィンドウマネージャが使われます。これにより、Xプログラムの見た目と使い心地はMicrosoft Windowsと同じになります。

標準のXディスプレイに近い見た目にしたい場合は、Xサーバをシングルウィンドウモードで実行します。Xアプリケーションが表示されるMicrosoft Windowsのウィンドウはひとつだけになり、このウィンドウをPCの画面全体に広げることができます。X Vision に付属しているローカルのMotif MWMなどの標準的なXウィンドウマネージャを使ったり、OPEN LOOK OLWM、HP-VUE、DECwindowsなどのホストに依存するウィンドウマネージャを使うこともできます。



シングルウィンドウモード用のプロファイルを作成するには

- ▶ 1 [X Vision プロファイル] ダイアログボックスで、新規プロファイルの基礎として X Vision のプロファイルを選択します。
- ▶ 2 [コピー] をクリックして、新規プロファイルに “ Single ” という名前を付けます。
- ▶ 3 [Single] を選択して、[プロパティ] をクリックします。
- ▶ 4 [シングルウィンド] をクリックします。
- ▶ 5 [OK] をクリックしてから、Xサーバを起動すると必ず Single がプロファイルとして使われるか、起動のたびに入力を要求されるかを [X Vision プロファイル] ダイアログボックスで指定します。

ファイルとフォルダの整理

ここでは、UNIX サーバでのファイルとフォルダの使用、および PC と UNIX サーバの間でのファイルのコピーの手順についての詳細を説明します。Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 の場合は、Unix ネットワークコンピュータかホストエクスプローラを使います。それぞれのプログラムについて例を示してあります。バージョン 4.0 より前の Windows NT の場合は、ホストマネージャを使います。

Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 での Unix ネットワークコンピュータの使用

UNIX ファイルシステムの中でファイルの移動やコピーができます。また、ある UNIX システムと他の UNIX システムとの間、UNIX システムと PC との間でも可能です。

ヒント

複数のファイルやフォルダを選択するには、コントロールキーを押したままクリックします。

[編集] メニューを使って移動またはコピーを行うには

- ▶ 1 移動またはコピーするファイルまたはフォルダをクリックします。UNIX のファイルやフォルダは [Unix ネットワークコンピュータ] の中で、Windows のファイルやフォルダは [マイコンピュータ] の中でクリックします。
- ▶ 2 [編集] をクリックし、移動する場合は [切り取り]、コピーする場合には [コピー] をクリックします。
- ▶ 3 切り取った、またはコピーしたものを貼り付けたいフォルダを開きます。UNIX のフォルダは [Unix ネットワークコンピュータ] の中で、Windows のフォルダは [マイコンピュータ] の中で開きます。
- ▶ 4 [編集] メニューの [貼り付け] をクリックします。

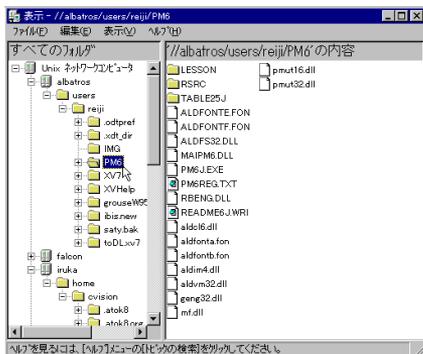
マウスの右ボタンを使って移動またはコピーするには

- ▶ 1 移動またはコピーするファイルを、マウスの右ボタンでクリックします。UNIX のファイルは [Unix ネットワークコンピュータ] の中で、Windows のファイルは [マイコンピュータ] の中でクリックします。
- ▶ 2 移動する場合は [切り取り]、コピーする場合には [コピー] をクリックします。
- ▶ 3 ファイルを置くフォルダを開きます。UNIX のフォルダは [Unix ネットワークコンピュータ] の中で、Windows のフォルダは [マイコンピュータ] の中で開きます。次に、マウスの右ボタンでウィンドウの中の何も表示されていない部分をクリックします。
- ▶ 4 [貼り付け] をクリックします。

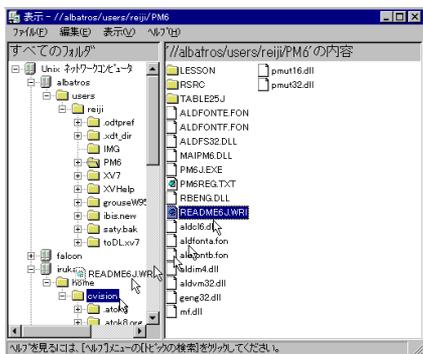
マウスでドラッグする方が、すばやく情報をコピーできる場合もあります。

ドラッグによって UNIX のフォルダ間で移動またはコピーするには

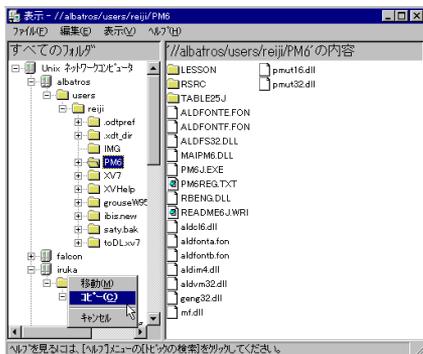
- ▶ 1 [ホストエクスプローラ]で、移動またはコピーするファイルが存在するホストとフォルダを開きます。



- ◀ 2 ファイルを移動またはコピーする先のホストとフォルダを開きます。



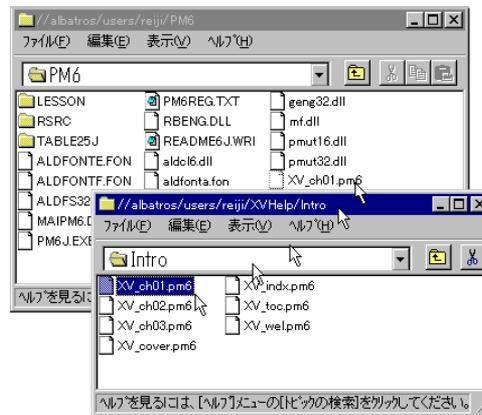
- ◀ 3 マウスの右ボタンで、コピー元のフォルダからコピー先のフォルダへファイルをドラッグします。ドラッグし終わったらボタンから指を離します。



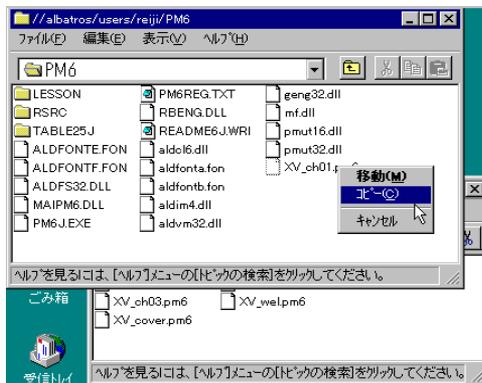
- ◀ 4 [移動] または [コピー] をクリックします。

ドラッグによって UNIX のファイルを PC に移動またはコピーするには

- ▶ 1 [Unix ネットワークコンピュータ]で、移動またはコピーするファイルが存在するホストとフォルダを開きます。
- ▶ 2 [マイコンピュータ]で、ファイルを移動またはコピーする先のホストとフォルダを開きます。



- ▶ 3 マウスの右ボタンで、コピー元のフォルダからコピー先のフォルダへファイルをドラッグします。ドラッグし終わったらボタンから指を離します。



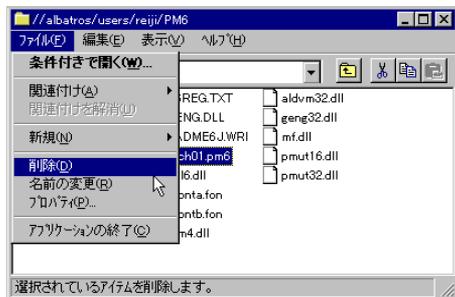
- ▶ 4 [移動]または[コピー]をクリックします。

ファイルまたはフォルダを削除するには

- ▼ 1 [Unix ネットワークコンピュータ] で、削除するファイルまたはフォルダをクリックします。



- ◀ 2 [ファイル] メニューの [削除] をクリックします。



Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 でのホストエクスプローラの使用

Windows 2000/Me/98/95 および Windows NT 4.0 では、ホストエクスプローラを使って新規フォルダを作成できます。

新規フォルダを作成するには

- ▼ 1 [ホストエクスプローラ] で、新規フォルダを作成する場所のフォルダを開きます。



ヒント

新規フォルダのプロパティを設定するには、[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。



- ◀ 2 [ファイル]メニューで[新規作成]をポイントし、[フォルダ]をクリックします。



- ◀ 3 一時的な名前で新規のフォルダが表示されます。

- ▶ 4 新規フォルダの名前を入力し、Enter キーを押します。

Windows NT 3.51 でのホストマネージャの使用

Windows NT 3.51 では、[ホストマネージャ]を使ってファイルやフォルダをコピーまたは削除したり、フォルダを作成できます。

ファイルやフォルダをコピーするには

- ▼ 1 [ホストマネージャ]で、コピーするファイルかフォルダをクリックします。

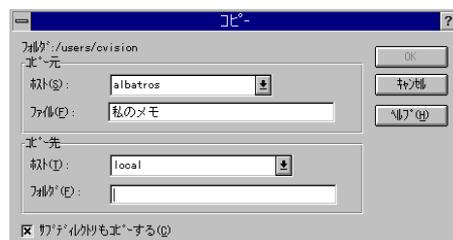


- ◀ 2 ツールバーにあるボタンで、テキスト転送かバイナリ転送かを選択します。



- ◀ 3 [ファイル]メニューの[コピー]をクリックします。

- ▼ 4 現在選択されているファイルが、ダイアログボックスの[送信元]に表示されます。
- ▼ 5 [送信先]ボックスで、ドロップダウンリストからホストを選択します。



- ◀ 6 [送信先フォルダ]ボックスに、ファイルとフォルダをコピーする先のフォルダのフルパスを入力し、[OK]をクリックします。

- ▶ 7 [転送中]ダイアログボックスが表示されて、転送状況が示されます。

コピー元のシステムでのファイル名がコピー先では有効でない場合は、指定したオプションに応じて、有効な名前が作成されるか有効な名前を入力するように要求されます。オプションを指定していないと、コピーによってエラーが発生することがあります。

マウスを使ったドラッグアンドドロップによってファイルを移動したりコピーすることもできます。

フォルダを作成するには

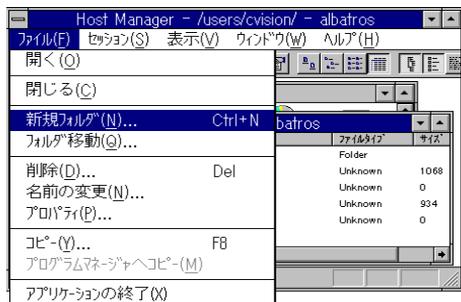
▼ 1 [ホストマネージャ]で、新規フォルダを作成する場所のフォルダを開きます。



▶ 2 [ファイル]メニューの[新規フォルダ]をクリックします。

ヒント

新規フォルダのプロパティを設定するには、そのフォルダをクリックしてから、[ファイル]メニューの[プロパティ]をクリックします。



▶ 3 指定された領域に新規フォルダの名前を入力します。

印刷

X Vision を使うと、Windows と UNIX のアプリケーションでプリンタを共有できます。UNIX アプリケーションから PC に接続されたプリンタに印刷することも、Windows アプリケーションから UNIX のプリンタに印刷することもできます。

さらに、X Vision の端末エミュレータには実際の端末と同じようにスレーブ印刷機能を持っているものもあります。この機能を使うには、ヘルプのキーワードの「端末エミュレータからの印刷」を参照してください。

PC での UNIX のファイルの印刷

PC の Print サーバは印刷要求を受け付け、PC に接続されているローカルプリンタに印刷します。X Vision をインストールすると、標準の LPD 印刷サービスを使うように設定された Default という名前のローカルプリンタが用意されます。LPD 印刷サービスは、さまざまな UNIX の TCP/IP ネットワークによる接続環境をサポートされています。印刷要求が送信できるようにするには、システム管理者が PC のプリンタを UNIX ホストのリモートプリンタとして設定する必要があります。ヘルプのキーワードの「UNIX 上のプリンタ設定」を参照してください。

TCP/IP ネットワークを使っていない場合、または LPD サービスをサポートしていない UNIX ホストの場合には、印刷できません。

ローカルプリンタの種類を変更するには

- ▼ 1 Windows のコントロールパネルで [Vision サービス] をダブルクリックし、[印刷] タブをクリックします。



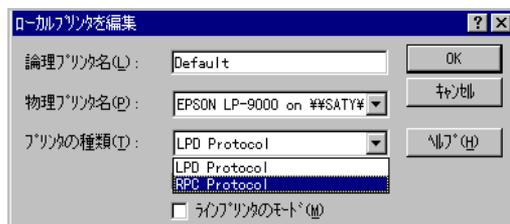
- ▼ 2 [プリンタ] ボックスで [Default] をクリックしてから、[編集] をクリックします。



- ▼ 3 [プリントタイプ] ボックスで、ドロップダウンリストから [LPD プロトコル] を選択します。

参照

ダイアログボックス内の項目に関するヘルプを表示するには、右上隅にある疑問符をクリックしてから、その項目をクリックします。



- ▶ 4 必要に応じて他のオプションを変更します。

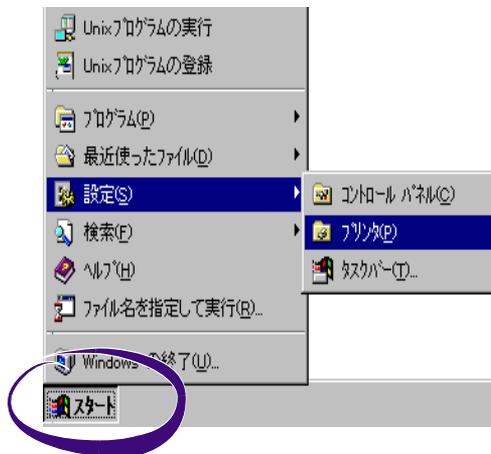
UNIX での PC のファイルの印刷

X Vision を使うと、離れたところにある UNIX プリントサーバに接続されたプリンタに Windows のアプリケーションから印刷できます。印刷ジョブは UNIX のスプーラによってスケジュールされます。PC のプリントサーバはクライアントプログラムとして働き、これによって印刷要求が UNIX ホスト上の印刷サーバに送られます。クライアントから印刷要求の送信は、LPD プロトコルだけを使用可能です。

UNIX のリモートプリンタを設定するには、以下の 3 つを行います。

- 1 UNIX ホストで、PC から印刷要求を受け取るプリンタを設定します。たとえば、プリンタの名前を room123 と指定します。
- 2 Windows のプリンタを新規に追加し、出力が PC 上のファイルに送られるようにします。
- 3 Vision サービスでリモートプリンタを設定します。
リモートプリンタを設定している場合は、ローカルプリンタと同様に Windows アプリケーションでリモートプリンタを選択すればそのプリンタへ印刷することができます。

Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 でプリンタを追加する方法



- ◀ 1 PC で [スタート] ボタンをクリックし、[設定] をポイントします。次に、[プリンタ] をクリックします。



- ◀ 2 [プリンタの追加] アイコンをダブルクリックします。

- ▶ 3 プリンタウィザードが起動するので、指示に従って新規プリンタを設定します。[ローカルプリンタ]を選択してから、UNIXシステムに接続されているプリンタの種類を選択します。ポートを選択するように要求されたら、リモート印刷に適したポートがなければ一時的に[LPT1]を選択します。例えば、QMS-PS810 といった具体的なプリンタ名を指定します。テストページは印刷しないように指定します。



- ◀ 4 ウィザードが終了すると、新しいプリンタが [プリンタ] ウィンドウに表示されます。



- ◀ 5 新しいプリンタのアイコンをマウスの右ボタンでクリックし、[プロパティ]をクリックします。



◀ 6 [詳細] タブの [ポートの追加] をクリックします。

◀ 7 [その他] をクリックし、リストボックスで [ローカルポート] を選択します。[OK] をクリックします。

◀ 8 新規のポート名としてファイル名を入力します。たとえば、「c:\tmp\unixprt.tmp」などを入力します。[OK] をクリックします。

▶ 9 [印刷先のポート] に新規の “ポート” が表示されます。[OK] をクリックして [プリンタのプロパティ] ダイアログボックスを閉じます。

これで、Vision サービスでリモートプリンタを追加する準備ができました。この手順はこのセクションで後から説明します。

Windows NT 3.51 でプリンタを追加するには



◀ 1 Windows のコントロールパネルで [プリンタ] をダブルクリックします。



▶ 2 プリントマネージャの、[プリンタ]メニューから [プリンタの作成] を選択します。

- ▼ 3 [プリンタの作成] ダイアログボックスに、プリンタ名、ドライバを正しく設定し、印刷先の[その他]を選択します。



- ▼ 4 [印刷先] ダイアログボックスの利用可能な印刷モニタの中から [Local Port] を選択します。



- ▼ 5 [ポート名] ダイアログボックスに [C:\tmp¥unixprt.tmp] などのファイル名をポートとして追加します。



- 6 これらの設定で、Windowsに印刷ポートが作成されます。

これでVisionサービスでリモートプリンタを追加する準備ができました。
この手順はこの章の後で説明します。

Vision サービスでリモートプリンタを設定するには

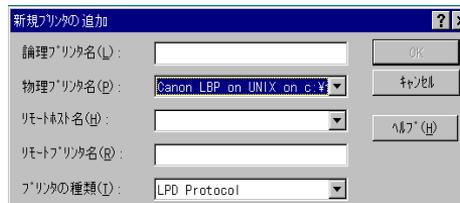


- ◀ 1 Windowsのコントロールパネルで、[Vision サービス]をダブルクリックします。次に、[印刷]タブをクリックし、[リモートプリンタ追加]をクリックします。

- ▼ 2 [論理プリンタ名] ボックスに新しい名前を入力します。
- ▼ 3 [物理プリンタ名] ボックスで、先ほど設定した Windows のプリンタを選択します (たとえば、ポートとして “c:\tmp\unixprt.tmp” を使う UNIX 上の “QMS-PS810”)。
- ▼ 4 リモートホストとリモートプリンタの名前を指定します (たとえば、“room123”)。
- ▼ 5 選択した UNIX ホストに PC から印刷データを送信するときの通信プロトコル (LPD) を指定します。LPD プロトコルを使う場合は、自分の PC のネットワーク上の名前をホストの /etc/hosts.equiv か /etc/hosts.lpd に追加する必要があります。ホストに付属している LPD に関するマニュアルを参照してください。

参照

ダイアログボックス内の項目に関するヘルプを表示するには、右上隅にある疑問符をクリックしてから、その項目をクリックします。

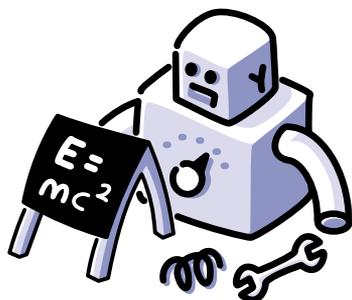


トラブルシューティング

Vision ソフトウェアの使用中に問題が発生した場合は、ヘルプのキーワードの「トラブルシューティング」を参照し、その手順に従って問題を解決してください。以下のトピックが扱われています。

- リモートホストに正しく接続できない場合
- UNIX ホストがひとつも見つからない場合
- 正しく印刷できない場合
- X クライアントを起動できない場合
- X クライアントの実行中に問題が発生した場合

また、問題を解決できないときにテクニカルサポートに連絡する方法も示されています。



ここでは、X Vision によって可能となる追加機能のいくつかと、UNIX のアプリケーションを Windows のデスクトップに統合する方法についてのヒントを示します。

デスクトップのゾーンへの分割、UNIX のデータから Windows ドキュメントにリンクする方法を説明します。

これらの注目すべき機能の詳細については、『ユーザーマニュアル・詳細編』またはオンラインヘルプのトピックを参照してください。

この章の内容

UNIX ショートカットの Windows デスクトップへの設定..	58
エミュレータから他のドキュメントへのリンク	61
Zone を使ったデスクトップの整理	64

UNIX ショートカットの Windows デスクトップへの設定

Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 では、頻繁に使うドキュメントやプログラムへのアクセスはショートカットによって簡略化することができます。X Vision では、UNIX アイテムへのショートカットを直接 Windows のデスクトップや画面のバックグラウンドに置くことができます。ショートカットは、フォルダ、プログラム、またはドキュメントに対して作成できます。

ショートカットを作成しても、そのファイルの位置が UNIX サーバ上で変更されたり、PC にコピーされません。ショートカットを削除しても、元のファイルは削除されません。ファイルを削除しても、ショートカットが自動的に削除されません。

ショートカットをデスクトップに置くには

- ▼ アイコンを [Unix ネットワークコンピュータ] からデスクトップにドラッグします。



フォルダのショートカットをダブルクリックすると、[Unix ネットワークコンピュータ] が起動してそのフォルダの内容が表示されます。プログラムのショートカットをダブルクリックするとそのプログラムが起動します。ドキュメントをダブルクリックすると、関連付けられているプログラムが起動してそのドキュメントが読み込まれます。

UNIX プログラムの自動的な起動

Windows を起動すると UNIX プログラムが自動的に起動されるようにすることができます。

Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 を起動すると UNIX のプログラムが起動するように設定するには

- ▶ 1 X アプリケーションか文字ベースのアプリケーションを起動する Windows のデスクトップ項目を作成します(第 1 章「基本事項」の「UNIX プログラムのデスクトップ項目を作成するには」を参照)。項目は、[スタート]メニューの中ではなくデスクトップ上に作成します。
- ▶ 2 Windows のエクスプローラで、[スタートメニュー] フォルダを表示します。



- ▶ 3 マウスの右ボタンを使ってドキュメントのアイコンを [スタートメニュー] フォルダにドラッグします。ドラッグしたらボタンから指を離します。



- ▶ 4 [ショートカットをここに作成] をクリックします。

Windows を起動するたびに、ショートカットによって指定されたプログラムが起動します。

Windows NT 3.51 を起動すると UNIX のプログラムが起動するように設定するには

- ▶ 1 文字ベースのアプリケーションの場合は端末エミュレータ用の設定ドキュメント、X アプリケーションの場合はリモートプログラムスタータ用のドキュメントを作成します。
- ▶ 2 ドキュメントを、プログラムマネージャの [スタートアップ] グループにコピーします。

このドキュメントによって指定されたプログラムが、Windows を起動するたびに起動されます。

エミュレータから他のドキュメントへのリンク

リンク貼り付け機能を使うと、端末エミュレーションのドキュメントと Microsoft Excel などの他の Windows アプリケーションで作成したドキュメントとの間にホットリンクを作成できます。

エミュレーションドキュメントは、UNIX サーバとの接続を開くため、およびリンクするデータを表示するプログラムを実行するために必要な設定をすべて指定することによって作成します。データは、フォームを使った問い合わせプログラムと同様に常に画面上の同じ位置に表示される必要があります。

[プログラム] ダイアログボックスで、[拡張機能] をクリックします。

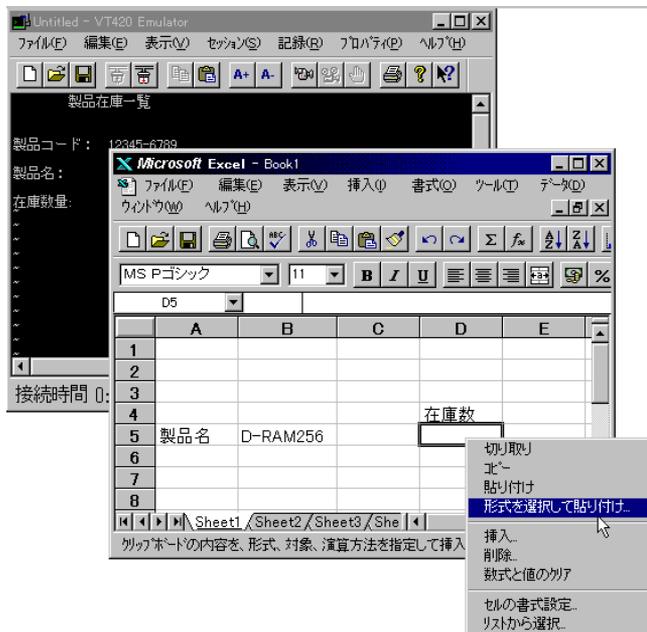


[リンク貼り付け] オプションをクリックして有効にします。タイトルがない状態のドキュメントにはリンク貼り付けは機能しないため、ドキュメントを保存します。

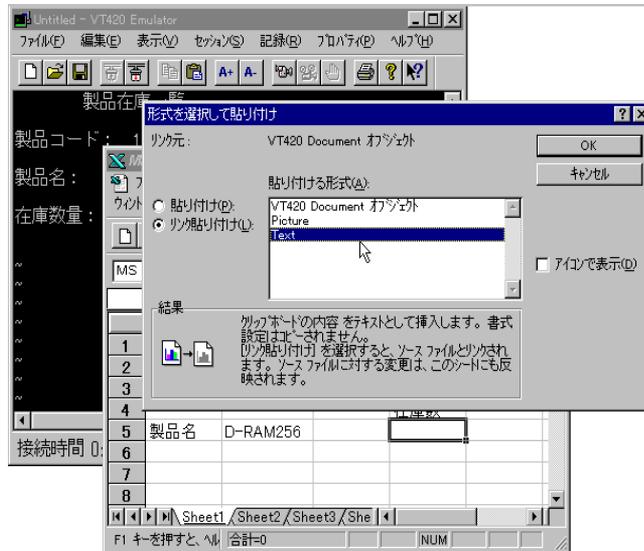
ドキュメントを開き、リンクしたいデータを選択してから、マウスの右ボタンをクリックしてメニューから [コピー] を選択します。



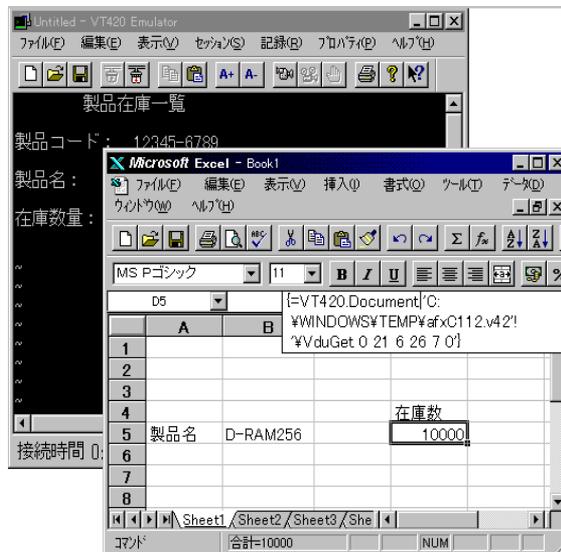
Excel のスプレッドシートで、データを表示する位置のセルをマウスの右ボタンでクリックし、メニューから [形式を選択して貼り付け] を選択します。



[リンク貼り付け] をクリックし、[貼り付ける形式] リストボックスで [Text] をクリックします。



リンクが作成されて、端末エミュレータの画面のその行と列に現在表示されている文字がスプレッドシートのセルに表示されます。



データが変更されると、リンク機能によってスプレッドシートのデータも変化します。

Zone を使ったデスクトップの整理

Windows 2000/Me/98/95 または Windows NT 4.0 を使っている場合は、Zone プログラムを使ってデスクトップを整理できます。現在実行中のアプリケーションをゾーンにグループ化し、その間で簡単に切り替えることができます。Zone を起動すると、PC 画面の最上部にゾーンバーが表示されます。



参照

詳細については、ヘルプのキーワードの「Zone」を参照してください。

左端の [Zone] ボタンをクリックするとメニューが表示されます。他のボタンはそれぞれのゾーンを表しています。ゾーンの名前を変更したり、ゾーンバーを移動したり、Windows のツールバーを非表示にするのと同様にゾーンバーを非表示にできます。Windows のデスクトップはすべてのゾーンで常に表示されます。

Zone を起動したときに実行中のプログラムは、すべて Zone 1 に置かれます。他のゾーンに切り替えるには、ゾーンボタンをクリックすると新しいゾーンが現れるので、そのゾーンに表示したいアプリケーションを起動します。ローカルの Windows アプリケーションの起動や、他の

プログラムを使って UNIX アプリケーションを起動することもできます。

各ゾーンには [スタートアップ] フォルダがあります。そのゾーンに初めて入ったときには、ここに指定したプログラムが起動されます。

索引



記号

- 1つ上のフォルダ
表示 31
- 1つ上のフォルダの表示 31

M

- Motif 40

O

- OPEN LOOK 40

P

- PCでのUNIXサーバの内容確認 25-27
- PCのファイル
UNIXプリンタでの印刷 50-56

U

- Unixアプリケーションウィザード 19
- UNIXサーバ
表示 25-31
- UNIXサーバの内容の確認 25-31
- Unixネットワークコンピュータ (Windows 2000/Me/98
ファイルとフォルダの削除 44
- UNIXの階層の表示 26
- UNIXショートカットをWindowsデスクトップに置く 58-
60
- UNIXファイル
Windowsプリンタでの印刷 49-50
- UNIXプログラム
自動起動 59-60
- UNIXプログラムのデスクトップ項目 19

V

- Vision コミュニケーションの設定 34
- Vision サービスの設定 35
- [Vision] フォルダ
~の中のX Vision アイテム 10-11

W

- Windows 2000/Me/98/95 または NT 4.0 のデスクトッ
~上のX Vision アイテム 9
- Windows デスクトップ項目 19
- Windows のデスクトップ
UNIXショートカットの配置 58-60

X

- X Vision
[Vision] フォルダ内のアイテム 10-11
- Windows 2000/Me/98/95 または NT 4.0 のデスクトッ
9
- Zone を使ったデスクトップへの整理 64
- プログラムマネージャの [Vision] グループ 10-11
- 他のドキュメントへのリンク 61-63
- X Vision の効率的な使用
UNIXショートカットのWindowsデスクトップへの配
置 58-60
- UNIXプログラムの自動起動 59-60
- X Visionのプロファイル 36, 38
- Xサーバ
アクティブな~の設定 37
- 起動 39-41

Z

- Zone
デスクトップの整理 64

ア

アクティブな X サーバ 37

イ

印刷する 49-55

UNIX で PC のファイルを 50-56

Windows のプリンタで UNIX のファイルを 49-50

ローカルプリンタの種類の変更 49-50

ウ

ウィンドウの表示形式

変更 30

エ

エミュレータを使った UNIX サーバへの接続 15, 17

オ

オンラインインデックス

使用 13

キ

起動する

UNIX プログラムを自動的に 59-60

X サーバ 39-41

疑問符のボタン

ヘルプの表示 14

ク

高度な機能 32

コピーする

端末エミュレータからデータを 22

サ

削除する

Unix ネットワークコンピュータを使ってフォルダやフ 44

作成

UNIX プログラムのデスクトップアイテム 19

作成する

ホストエクスプローラを使ってフォルダを 44-45

ホストマネージャを使ってフォルダを 48

シ

システム設定

Vision コミュニケーション の設定 34

Vision サービスの設定 35

X Vision のプロファイルの設定 36, 38

アクティブな X サーバの設定 37

設定 33-39

ショートカット 58

シングルウィンドウモード 40

セ

設定する

Vision コミュニケーション 34

Vision サービス 35

X Vision のプロファイル 36, 38

アクティブな X サーバ 37

システムの設定 33-39

タ

ダイアログボックス

~でのヘルプの使用法 14

端末エミュレータ

UNIX サーバへの接続 15, 17

コピーアンドペースト 22

フォント代替 23-25

他のドキュメントへのリンク 61-63

端末エミュレータでの作業

UNIX サーバへの接続 15, 17

コピーアンドペースト 22

フォント代替 23-25

他のドキュメントへのリンク 61-63

ツ

ツールバー

フォルダウィンドウでの表示 31

追加的な機能 57

テ

デスクトップ項目

UNIX プログラムの ~ を作成する 19-22

ト

ドキュメント

- ホストエクスプローラまたはホストマネージャから開く 27
- ドラッグアンドドロップ 42, 43

フ

ファイル 41-48

- Unix ネットワークコンピュータを使った移動 41
- Unix ネットワークコンピュータを使ったコピー 41
- Unix ネットワークコンピュータを使った削除 44
- 種類 29
- 整理 41-48
 - ドラッグによる移動 42, 43
 - ドラッグによるコピー 42, 43
 - ホストマネージャを使ったコピー 45-46
 - ホストマネージャを使った削除 47
- ファイルとフォルダの整理 41-48
- ファイルの種類 29
- ファイルの種類の区別 29
- ファイルを移動する
 - Unix ネットワークコンピュータを使って 41
 - ドラッグによって 42, 43
 - マウスの右ボタンを使って (Windows 2000/Me/98/95 と 41
- ファイルをコピーする
 - Unix ネットワークコンピュータを使って 41-44
 - ドラッグによって 42, 43
 - ホストマネージャを使って 45-46
 - マウスの右ボタンを使って (Windows 2000/Me/98/95 41
- フォルダ
 - 1つ上の表示 31
 - Unix ネットワークコンピュータを使った移動 41
 - Unix ネットワークコンピュータを使ったコピー 41
 - Unix ネットワークコンピュータを使った削除 44
 - 整理 41-48
 - ホストエクスプローラを使った作成 44-45
 - ホストマネージャを使ったコピー 45-46
 - ホストマネージャを使った削除 47
 - ホストマネージャを使った作成 48
- フォルダを移動する
 - Unix ネットワークコンピュータを使って 41
- フォルダをコピーする
 - Unix ネットワークコンピュータを使って 41-44
 - ホストマネージャを使って 45-46
- フォント代替 23-25
- プリンタ
 - Vision サービスでのリモートプリンタの設定 55
 - Windows NT 3.51 での追加 53-55

Windows 2000/Me/98/95 と NT 4.0 での追加 51-53

プログラム

- 実行 15-17
- 端末エミュレータでの実行 17-26
- ホストエクスプローラまたはホストマネージャからの実行 29-30
- プログラムとドキュメントのオープン 15, 17
- プログラムマネージャの [Vision] グループ
 - ~の中の [X Vision] アイテム 10-11
- プロパティシート. ダイアログボックス を参照
- プロパティのダイアログボックス. ダイアログボックス を参照

へ

ベースト

端末エミュレータへのデータの 22

ヘルプ

- アクセス 12-14
- オンラインインデックスの使用 13
- 特定のアイテム 14-15
- トピックリストの使用 13
- ヘルプトピックの検索 12
- ヘルプの [キーワード] タブ
 - トピックの参照 13
- ヘルプの [目次] タブ
 - トピックを探すために使う 13
- ヘルプの使い方 12-14
- 変更する
 - フォルダウィンドウでのアイコンの表示形式 30
 - フォルダウィンドウの表示形式 30

ホ

- 他のドキュメントへのリンク 61-63
- ホストエクスプローラ (Windows 2000/Me/98/95 と NT
 - エクスプローラモード 26
 - フォルダ階層の表示 26
- ホストエクスプローラ (Windows 95 と NT 4.0)
 - プログラムの実行とドキュメントのオープン 29
 - フォルダの作成 44-45
- ホストエクスプローラ (Windows NT 3.51)
 - プログラムの実行とドキュメントのオープン 29
- ホストマネージャ (Windows NT 3.51)
 - UNIX サーバの内容の表示 27-28
 - 45-46
 - ファイルとフォルダの削除 47
 - フォルダの作成 48

マ

マウスの右ボタン
ファイルのコピーと移動 41

リ

リモートプリンタ
Vision サービスでの設定 55